

(別記様式)

令和7年度 学校運営改善シート

学校名	筑波大学附属坂戸高等学校	
	令和6年度	令和7年度
校長名	江前 敏晴	深澤 孝之
幼児・児童・生徒数 (5月1日現在)	477	449
学級数	12	12

学校教育目標	<p>「Engage today. Empower tomorrow.」 (明日をつくる。今を生きる。)</p> <p>複雑で予測の難しい社会の変化を自分自身のこととして前向きにとらえ、自分と自分のまわりの幸せを願い、社会に生きる一人の「主人公」となって自らの可能性を最大限発揮し、多様な他者と協働することで、新しい未来の姿を構想し実現していく人材の育成を目指す。</p>
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学科教育をリードする役割を果たす。 ○グローバル共生教育を積極的に進める。 ○教育実習、教員研修の機会を提供する。 ○時代を拓く学校教育のあり方を大学と連携し示す。 ○個人情報保護や研究倫理、いじめ防止対策など法令等の遵守に努める。 ○教職員の働き方の改善に努める。

附属学校群の ミッション	<p>Designing Education for an Inclusive and Global Society (インクルーシブでグローバルな社会を実現するための教育をデザインする)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 時代を切り拓く教育のデザインと革新的な教育実践の追求 (2) 多様性を尊重しインクルーシブな社会を実現する人材の育成 (3) グローバルな視野をもち持続可能な社会を実現する人材の育成 (4) パートナースHIPによる未来の共創 (5) ウェルビーイングの向上と安全・安心・快適な環境の創出
-----------------	---

(別記様式)

学校名	筑波大学附属坂戸高等学校
-----	--------------

【達成度】	IV・・・「目標を上回って実施している」 III・・・「目標を十分に実施している」 II・・・「目標を十分には実施していない」 I・・・「目標を実施していない」
-------	---

分野	重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
			重点目標に対する評価	達成度		
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○令和8年度から実施予定の教育課程の改編に向けて準備を進める。 ○令和7年度から移行する二学期制について着実な実施に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい教育課程の趣旨や変更点を理解するための研修を実施。 ○教科ごとの指導計画の見直しと作成。 ○入試広報時における新教育課程の丁寧な説明。 ○新しい教育課程導入に合わせた学校行事等の検討。 ○定期考査や成績評価の時期・方法の明確化。 ○学習サポート体制(補習・学習相談)の強化。 ○進路指導や受験対策の計画的実施 ○アンケート調査を実施し、新制度に関する課題を早期に発見・対応。 ○学期ごとの業務負担を分散させる工夫(会議の頻度調整など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和8年度の新教育課程改編に向け、各教科での指導計画(シラバス)の見直しや、教職員向けの研修会を計画的に実施し、新課程の趣旨や変更点について共通理解を深めることができた。 ○令和7年度からの二学期制移行に伴う行事計画を策定した。 ○定期考査の回数削減(年4回)に合わせた成績評価時期の明確化を完了させた。 	III	<ul style="list-style-type: none"> ○新教育課程の内容が中学生や保護者へ十分に伝わりきっておらず、入試広報における説明の更なる工夫が必要である。 ○学習相談体制を強化し、長期休業中の学習意欲維持を図るため、AI教材等を導入する。 ○二学期制導入により、海外校との連携や留学生・教育実習生の受け入れ時期にズレが生じる懸念があり、筑波大学や海外姉妹校、外部機関と緊密な調整を継続し、柔軟な単位認定や集中学習の利点を活かした独自の教育プログラムを構築・運用し改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二学期制について、大学との連携強化や柔軟な履修を可能にする利点を評価しつつ、海外連携や教育実習のタイミングに支障が出ないよう、丁寧な調整を継続してほしい。
進路指導・生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度末に見直した「いじめ防止基本方針」に沿った体制の整備と運用に努める。 ○進路先の決定にあたっては生徒の意向が達成されるよう適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方針にもとづいた校内組織の整備と運用。 ○教職員の研修の実施。 ○生徒・保護者への啓発活動、説明実施。 ○年次会(週1回)、企画委員会(月2回)におけるいじめ認知の確認と状況に応じた対策の実施。 ○生徒一人ひとりの適性や希望に応じた進路資料の提供、面談の実施。 ○自己推薦書の書き方や面接対策の充実。 ○保護者との連携強化。 ○OB・OGを招いた講演会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度末に見直した「いじめ防止基本方針」に基づき、年次会や企画委員会でのいじめ認知確認を徹底し、教職員間の情報共有を速やかに行うことでのいじめの早期発見・対応に努めた。 ○生徒の「WILL」を重視した進路指導を展開し、充実した自己推薦書作成や面接対策の充実を図った。ポートフォリオの蓄積を促し、生徒個々の適性に応じた個別面談を強化した。 	III	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ認知確認を徹底し、教職員間の情報共有を速やかに行うことで早期発見・対応に努め、日常的な観察内容を共有しやすい仕組みを整備し学校全体で一貫した対応ができる体制づくりを進める。 ○多様な背景を持つ生徒が安心して学校生活を送れるようにするため、SCやSSW、外部機関との連携をさらに密にし、インクルーシブな支援体制を組織的に強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「なりたい自分をつくる」教育は現代の社会要請に合致しており非常に理想的である。 ○探究とグローバルの関係性などが中学生にとって分かりやすく、探究活動で得た主体性が卒業後にどう活かしているか、具体的な「成長の姿」を可視化して発信してほしい。
保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の心身の状況について、積極的な観察とケアを実施する。 ○設備等の不備や不具合による事故を防止する。 ○緊急時対応(危機管理マニュアル)について見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SHRでの健康観察の実施。 ○健康相談アンケートの実施。 ○ICTを利用した相談窓口の開設。 ○SNSの利用や、性教育、薬物に関する生徒向け研修の実施。 ○危険箇所をリスト化し、優先順位をつけて修繕を実施。 ○設備異常の情報が共有される仕組みづくり。 ○既存マニュアルの検証と改訂。 ○緊急時の連絡体制の確認・整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SHRでの健康観察や定期的なアンケートを通じ、生徒の悩みの早期把握に努めた。全校集会や学年集会等で、性教育や薬物、SNS利用に関する注意喚起や生徒向けの研修会を実施した。 ○校内の危険箇所に優先順位をつけて修繕を実施した。 ○地震対応の危機管理マニュアルの更新を行い、実践的な防火防災訓練を実施して緊急時の連絡体制を確認した。 	II	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察やアンケート、ICT相談窓口、各種研修を通して組織的な「チーム支援」と予防教育を強化し、問題の発生や深刻化を防ぐ。 ○危機管理マニュアルの見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な教育環境の確保は学校の責務である。特に老朽化した施設については、大学の資源を活用して早急に改善することを強く求める。
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の働き改革を進める。 ○教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議のスリム化(オンライン活用、資料共有による短縮化)。 ○年次休暇取得の推奨と取得率向上。 ○業務の見直し、廃止の促進。 ○ICTの活用による業務軽減策の検討。 ○法令遵守(ハラスメント防止、個人情報管理等)に関する研修の実施。 ○相談・報告体制の明確化。 ○管理職による面談などを通じた改善点の把握。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議資料の事前共有によるスリム化、時間短縮化を進めた。勤怠管理システムの運用や勤務カレンダーの作成、年次休暇の取得推奨により業務負担の軽減と適切な労務管理を推進した。 ○法令遵守(ハラスメント防止、個人情報管理等)に関する研修を実施し、教職員の意識向上を図った。特に生徒の個人情報については、紙・電子データともに各教員室から職員室へ集約し、管理を徹底する体制を構築した。 	II	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の取扱いに対する法令遵守意識の向上を徹底するとともに、定期的な研修を実施し、適切な情報管理体制の強化を図る。 ○ハラスメントに対する未然防止に向けた取り組みとして、オンデマンド教材等を活用した定期的な研修を実施し、教職員の意識改革を促すとともに、相談・報告体制の明確化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○質の高い教育を維持するためには、教員の負担を軽減しつつ、質の高い教員を確保・育成する組織体制が不可欠であるとの指摘があった。大学との連携をさらに強化し、附属学校としての実験教育機能を高度化させてほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○WWL事業を確実に進める。 ○学校として将来ビジョンを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業目的についての教職員の理解促進。 ○事業の円滑な実施と適切な運営管理。 ○役割と責任分担の明確化。 ○関係者相互の情報共有を徹底。 ○大学と連携した将来構想計画の推進。 ○各種説明会を通じた将来ビジョンの説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ○WWL事業の2年目を計画通り推進し、海外姉妹校との交流や国際ESDシンポジウムの開催を通じてグローバル人材育成を具現化した。 ○改革の軌跡をまとめた書籍の出版や研究大会での成果発表を通じ、先導的な教育拠点としての社会的責任を果たした。 ○情報発信の強化に努め、学校説明会やオープンスクールを積極的に開催した。 	II	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生に「選ばれる学校」になるため、本校の学びがどのように「なりたい自分」に繋がるのかを、より平易で魅力的な言葉で発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の「中学生に選ばれる高校」になるための広報の工夫が強く求められている。特に、本校の特色ある学びが高校卒業後の成長にどう繋がるかという「出口の姿」を積極的にアピールすべきである。